

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21731000583		
法人名	医療法人社団 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果市町村受理日	令和2年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2173100583-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体法人のクリニックが隣にある事から、医師との連携が十分に取れており、安心して生活ができる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人内の職員異動がほとんどなく、現在の管理者も就任以来、職員の働きやすい環境作りに努めている。利用者がホームでの生活を維持するためには、設備改修が課題であったが、それが実現し、新たな設備改修に向けて職員の意見を上に挙げるなど、利用者寄り添った支援を実践している。入居前に、飲酒習慣のあった利用者であっても、「禁止」ではなく、ノンアルコールで楽しんでもらうこともその一つである。家族に配布する通信には、協力医執筆の「今月の医療メモ」を掲載し、医師との連携を示しながら家族の安心感につなげている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は施設立ち上げ時から作られており、管理者と職員はその理念を共有している。	「老いても個人が尊重され、自分らしく生きることを大切に」という理念を、ユニット入り口とスタッフルームに掲げている。利用者の高齢化や重度化が進む中、理念に沿ったケアが十分できないジレンマを職員が持ちながらも、事業所としての取り組みを検討している。	理念を実現するために、現状で出来る事、出来ていない事を分析し、他事業所の工夫や取り組みの情報収集に努め、職員全員で意見を出し合い、具体的な取り組みの実践に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理想と現実とはなかなか一致せず、現実には施設の中だけの暮らしになっている。	開発された戸建住宅街の中にあり、地域交流は難しいが、隣接のデイサービスの行事に参加し、地域のボランティアとの交流もある。七夕会、夏祭り、敬老会等、利用者が楽しめる行事が用意されているが、内部で完結しているため、民生委員の協力で地域とのつながりが持てるよう働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	②と同じく地域との交流が無いため出来ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1で会議を行っており、報告や情報交換などきちんと出来ている。	運営推進会議は隔月に開催している。利用者の生活状況の理解につながる良い機会と捉え、食堂兼リビングで会議を行い、職員と利用者のやりとりも目にする事が出来る。空室状況や職員の退職等を報告して、事業所の運営状況を開示し、情報や意見交換につなげている。家族へは通信で参加呼びかけをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各ユニット管理者を中心に市役所へ連絡するよう機会がある。	行政主催の市内グループホーム交流会には管理者が出席し、認知症サポーターの見学施設として受け入れを行い、市と連携して認知症理解を深める活動に協力している。介護相談員(あんしん介護パートナー)の訪問が年数回あり、助言等をサービスに反映させ、市担当者との報告・連絡・相談に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設としては、身体拘束をしないケアを実践していこうとしているが、利用者様の状況状態に応じてやむを得ず廊下のドアの施錠を行う時がある。	身体拘束適正化に関する指針や、身体拘束についてのマニュアルを整えている。職員ミーティングでも、認識不足や無意識に身体拘束をしていないかを振り返りながら、理解を深めている。委員会の設置や職員周知の為の議事録を整備中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待や心理的虐待への理解を得る為の勉強会が必要と感じている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてな職員が活用できる理解は浅く学べる場を設ける必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際、利用者の家族等にとって内容や不安や疑問が生じ無い為、十分な説明をし納得した上で契約を行っている。長期になったり、状態が変化した場合も負担や説明を話し合って確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見や要望を引き出せる様、面会時や電話で伝えサービス向上の質や向上につなげている。ドクターや運営会議に意見を示している。	毎月、さくら通信を発行して家族に行事報告と予定、利用者全体の様子等を伝え、玄関口には、広い机の上に面会簿と共に意見箱を設置している。家族の来訪時に、毎月の薬代の支払いや医療受診の依頼等で、直接様子を見てもらう等で話す機会も多く、できる限り要望に応えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な決定権は運営側にありますが、利用者の状況実情を直に知っている現場の職員ですが、職員の声は活かされず現状反映されていない。	前回の取り組み課題であった、「利用者の身体状態に応じた設備の導入について」の職員意見を受け、各居室にあるトイレに手すりが設置された。管理者は会議や日常業務の中で職員の意見を聞き、代表に伝えているが、費用が発生する案件には、明確な回答が得られていない。	職員からの設備導入の要望は、利用者のニーズに応じた質の高いサービス提供に、必要不可欠である。代表に詳細な分析資料を提示して現場の状況を伝え、運営の反映につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自持てる職場の環境を整える事が勤続年数につながる運営者職員の日頃の努力や個人的な実績勤務状況処遇への反映向上心やりがいは反映されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員や質を向上させていけるように立場や経験に応じた学習会や、研修などを事業所内で行い参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上していくために他法人、同業者との交流の場を作ったり、県や国のネットワークなどに加入して仕事の悩みを解消してサービス水準の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人が安心を確保するために本人の声に耳を傾けたり、気持ちを受け止めることで事業所との関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ち、家族と本人思いの違い、家族同士の違いなど理解し、その家族自身を受け止めるよう努め関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じょくそうの出来た利用者様には家族に状態を伝える。このままGHでの生活をしていくにはエアマットが必要である。今後どうして行くのか医師と家族のムネテラを行う。GHには車椅子・電動ベットも常備されていない為負担が大きい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の様子を見ていて、会話ができる方同士との席替えをしたりして様子を見る。そしてその人が出来ることをして頂いている。食前食後のテーブルを拭き、食器拭きお盆拭き等交代しながらやって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短期記憶の極端に短い利用者様は1週間前に来られても忘れるので、写真を撮って見せて話題にする。毎日、ご家族様には連絡を取っている事を伝える。本来は、利用者様中心に御家族様にも協力して頂きたいが、ご家族様の要望のみ受け入れ入るのが現状。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所にはご家族様が外出で行かれています。職員は人が居なくて行えない。利用者様の面会には友人の方や、近所の方があり居室でゆっくり話されている。	家族は最低でも月1回の来訪があり、家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。職員は、来訪者に笑顔と声掛けをして雰囲気作りに努め、再来につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	帰宅願望が強く不穏になる利用者様の話を根気強く聞き、同調して下さる利用者様も居られるので、負担になり過ぎないように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば、老健や他の施設などに移られる場合でも、看護サマリー記入やご家族様への申し送りなどは日常において経過報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人が何を求めているのか? 日常の会話で把握できるので、ご家族様にも協力していただき、スタッフ同士で話し合ったりしている。	職員は、家族や入居時のアセスメント情報を参考に、利用者の思いや意向を把握し、その情報を職員間で共有している。また、職員は、日頃から利用者同士の関係も把握し、配慮しながら支援を行い、具体的な対応等を介護計画の中に盛り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様との会話を大切にして馴染みの習慣などを把握したり、時にはバックグラウンドアセスメントなどを見直したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握して行く事が大切である。その上で利用者様個々の問題点を職員全員で情報交換し考えていくことが必要。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側ではなく、利用者様がよりよく生活できる為の課題やケアの仕方について本人中心に話し合い、作成する事が大切です。アセスメントとモニタリングを繰り返し、常にその時の身体状態に合わせての見直しが必要である。	利用者から直接意向を聞き、困難な人には職員が利用者の代弁者となって思いを汲み取り、介護計画に反映させている。半年ごとのアセスメントとモニタリング期には、家族の参加を基本にして意見交換をしながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の上でほんの些細な変化でも、記載する事が大切です。その記載の情報を共有してケアに活かして行く事が大切だと思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず、その時のニーズに応じて多様な支援の方法を備えて行くようにする。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のハイツ祭りに作品を出品したい、美容院に出張カットをお願いしたり、地域との交流を取りながら又支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度事業所かかり医の往診をし、眼科、歯科、整形等の医療機関へは、ご家族に同行してもらい受診して頂いている。	併設のクリニックと同法人施設の医師が協力医となっており、利用者全員が協力医を主治医としている。事業所には常勤の看護師の配置もあり、適切な医療支援体制がある。希望に応じて訪問歯科にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化、異常を看護師ドクターにマメに報告、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退所前に管理者と相談員が病院に出向き利用者様の状態を見る、又、家族、病院関係者から情報を得ることで、事前に状態を把握しており、利用者様のスムーズな受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期はどこまで看させて頂くのか、その時のADLの状態に応じてご本人、ご家族に加え、ドクター職員を含め今後の方針、ご家族のご意向を伺い傾聴し、話し合い、ご相談し支援をさせて頂く為にも職員の意見交換を大切に考えていく。	看取りの対応を可能としているが、入居時に事業所として出来る範囲を説明した上で、同意を得ている。家族には利用者の状況について、その都度報告し、今後の方針を家族と共に話し合いながら、不安がないよう支援し、重度化や看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時にも慌てず適切な行動を出来るように、定期的な訓練に参加して行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練等で避難出来るように、ご利用者様、職員と共に避難経路の確認、消火器の使い方理解し取り組んでいく。	避難訓練は、同法人の事業所全体で行っている。運営推進会議の日と併せて実施し、行政や地域の役員等からの意見や気づきを改善につなげている。ハザードマップ上では、水害被害は想定外であるが、停電時には非常灯で対応できるようにしている。備蓄品は法人で管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を守る為、日々の小さな事からプライバシーの確保の積み重ね、職員で常に意見交換をし確認しあう事が大切。	全居室にトイレを設置し、排泄はプライベート行為として利用者の尊厳を大切にしている。排泄用品は、本人の誇りと羞恥心に配慮し、人目につかないよう戸棚に収納している。利用者との会話時には、常に敬う気持ちを持って言葉遣いに気を付けるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるように努めている利用者の行動から、今何がしたいのか考え、声掛けやジェスターを交えながら、本人の希望や思いを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、利用者のペースで過ごして頂いている。また、体調や状態の変化に合わせて、1日の過ごし方を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を希望される方には、家族と連絡を取り外出して頂いている。また衣類は汚れた際、その都度交換、着替えをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、食中毒等の関係から給食(外部の業者)になっているが、食後の片付けの際、食器を台所まで持って来て頂く等、その方に出来る事をお願いしている。	食事は、法人全体で外部業者に委託し、配膳は事業所で行っている。入居時に嗜好調査を行い、代替メニューの対応もしている。寿司の日には、好きなネタを握ってもらうなど趣向を凝らしたり、うなぎの夕食を楽しむなど、食べたいものを聞きながら、できるだけ要望に応えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握や水分量の確保ができるよう努めている。食べやすいよう食器を変える、スプーンを使ってもらう、コップをストロー付きの物に変える等工夫している。また食事以外に10時、15時におやつ時間を設け、紅茶、コーヒー等飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を清潔に保てるよう、ご本人の状態に合わせて、食後、口腔ケアをしている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせ、ADL低下防止の為に、なるべくオムツに頼らず、トイレで排泄出来るよう支援している。	居室にトイレがあり、排泄の自立継続を支援している。排泄管理表で個々の排泄状況を記録し、尿意があり自立している人は本人に任せ、職員が確認している。足元がふらつく人やパッド処理がうまく行かない人は安全の為に見守りを行っている。おむつからリハビリパンツへと自立度が上がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のリズムを把握し、便秘予防のため、薬の調節や、運動をするようにレクや体操の参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合は、無理強いはいしていないが、身体の清潔を保つ為と、皮膚観察の為、なるべく入って頂くよう促しをしている。	安全な入浴支援を第一とし、拒否のある利用者には、声掛けの工夫や日にちを変えて対応している。座位が保てない利用者の場合はシャワー浴で支援しているが、今後は、重度化した利用者も入浴を楽しめるよう機械浴の導入を検討中である。肌の保湿ケアにも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり活動状況のストレスの状態を把握し、必要な休息や、睡眠を取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的を理解し、誤薬を防ぐための確認作業を毎回している。本人の症状の変化等を記録し、医療関係者に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや、張り合いのあるものになるよう、レクリエーションや体操、季節の行事などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、家族や友人と出掛けられるよう支援している。また、外食や花見など全員で出掛けられる行事を計画し実行している。	広い中庭に東屋やベンチが設けられており、花を眺めたり外気浴を楽しんでいる。隣接のデイサービスへの行事参加も適度な外出になっているが、重度化した利用者も増えており、満足な外出が難しい現状にある。個々の希望する外出は、家族の協力を得て行っている。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の使用について家族から合意を得ている。また使用した金額についても家族に報告している。買い物や外食等、レクリエーションで使用する際は前もって家族に伝え合意の上で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を希望した際は、付き添い家族に電話をして頂いている。また、ご自分で携帯電話にて家族、知人の方に電話をしている方も居られ支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室等)が各利用者が居心地よく過ごせる場になる様常に工夫をしている。	玄関は広く、靴の履き替え用の椅子が用意されている。共有空間は整理整頓され、掃除も行き届いている。廊下やリビングには明るい採光が入り、車椅子でも安全に往来できる十分な広さもある。年間を通した行事や日常の利用者の様子をアルバムにし、家族や来訪者が自由に閲覧できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で、各々の生活歴に配慮し、常に不安、ストレスのないように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室での生活は、本人がその人らしく暮らせる場なので、使い慣れた品や今までの生活とギャップが生じないように工夫をしている。	各居室にトイレがあり、口腔ケアがしやすい洗面台、クローゼット、机と椅子、ソファやテレビ台も事業所で用意されている。利用者は、身の回りの物を持参し、家族の写真や誕生日メッセージ色紙等を飾り、個々の好みに合わせて、居心地良い部屋づくりをしている。トイレは職員が毎日清掃し、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を把握し、出来ることを活かし、本人の意欲を引き出し、安心して生活出来る居心地の良い場を、と、考えている。		